

演 題	利用者様疑似体験を通して パートⅡ
副 題	片麻痺の利用者様の気持ちになって

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ コウフカワセミアン
施 設 名	介護老人保健施設 甲府かわせみ苑
フリガナ	カイゴフクシシ タカニアスカ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 高荷明日香
フリガナ	サンカイショクインイチドウ
共同研究者	三階職員一同

【はじめに】

昨年、当施設では「利用者様疑似体験を通して」というテーマで発表を行った。その結果、利用者様の気持ちに寄り添うことや声掛けの重要性を学ぶことが出来た。更に多くの職員に疑似体験を通して利用者様の気持ちや苦労を理解し、一人ひとりが日頃行っている介護について見直し、今後の支援に活かしていけるよう、今年は片麻痺の利用者様に焦点を当て疑似体験を行った。その内容をここに報告する。

【取り組み内容】

麻痺側の手に重りを装着し三角巾で固定。足に重りを装着し、下記2項目左右片麻痺の疑似体験を行った。

①食事

実際に利用者様が召し上がっている食事(おやつ)メニューを自力にて摂取した際、どのような不便が生じるのかを体験する。

②排泄(トイレ誘導)

車椅子に乗車し、ホールからトイレまでの距離を自走する。また、車椅子から便座への移乗を行うどのような不便が生じるのかを体験する。アンケート用紙を作成し、3階職員全員が体験を行った後、反省・感想・今後の課題を記入した。

【結果】

①右片麻痺：聞き手が患側だった為、箸を上手に使いこなすのは困難でスプーンですくって食べるのが精一杯だった。しかしスプーンを使用しても、食事の残りが少なくなってくると上手くまとめることが出来ず苦戦した。また、食べ物を口まで運ぶ際、距離が遠いと食べこぼしが多くなってしまった。

左片麻痺：皿を持ったり支えたりすることが出来ない為、食べこぼしてしまうことも多かった。おやつのでゼリーは容器も小さく、容器ごと動いてしまい上手くすくえなかった。

②右片麻痺：ホールからトイレまでの距離を車椅子で移動したが、左手のみで漕いで進もうとすると真っ直ぐ進まず曲がってしまう。左足で蹴りながらバランスを取って進むとスムーズだった。トイレでの移乗の際は、手すりに掴まる位置によって力の入れ

具合や立ちやすさが異なることが分かった。

左片麻痺：自走の際は思うように前に進まず、目的の場所まで遠く感じた。移乗では、利き腕が使える為手すりに掴まり立つ時は困難ではなかったが、片足で立位をとらなければならないのでバランスがうまくとれなかった。便座に座る際も、便座との距離感覚がうまく掴めず介助者に支えてもらわないとスムーズに座ることが出来なかった。

【今後の課題】

トイレ誘導や移乗の際は、手すりに掴まる位置や足の位置の確認、利用者様のタイミングに合わせた声掛けなどが大切だと思うので、細かなことにも配慮していきたい。食事面では、食器が動かないよう滑り止めマットを用いたり、平皿を使用しスプーンですくいやすくしたりする等の工夫が必要であると感じた。また利用者様に合った自助具の提供を行い、その方が持つ残存機能が活かせるようにしていきたい。利用者様個々のADLをきちんと把握し、その方に合った対応を心掛けていきたい。

【まとめ】

今回の疑似体験を通して、普段は目を向けられていなかった利用者様の生活の不便さや細かな苦労に気づくことが出来たと思う。日々の業務に追われがちで、気が付くと利用者様に対して職員目線で接してしまっていることも少なくないが、私たち支援者が事前に利用者様の立場や気持ちをくみとり物事を考えることが出来れば、良いケアを提供しより過ごしやすい生活を送っていただけるのではないだろうか。普段利用者様が感じている見えない苦労や心の変化にも気を配り、一人ひとりの心に耳を傾けることも介護者の大切な役割であると感じた。今後は本人の意見を確認し、目標設定をした後、実行していくことが私達自身の達成感にもなるので、喜んで頂けるケアを提供していきたいと思った。今回の疑似体験がそのきっかけとなり、職員同士の意識向上や、やりがいに繋がっていくよう今後も心掛け、初心を忘れないためにもこのようなことを定期的に行っていきたいと思う。